

第62回試験研究成果発表会(果樹(常緑果樹))発表概要

【動画配信期間】 令和7年3月31日(月)～令和8年1月5日(月)

【場 所】 YouTube「千葉県公式セミナーチャンネル」

発表1 成果発表

ビワ「大房」及び「田中」の幼果の耐寒性

特産果樹研究室 椎木 千晴

千葉県はビワの経済栽培の北限であり、毎年、厳寒期の気温低下による寒害の発生が懸念されます。主要品種の「大房」は比較的寒害に強いと言われています。そこで、過去22年間の生育調査の結果を解析するとともに、恒温器内で低温試験を行い、「大房」や「田中」が寒害を受ける生育ステージや、温度条件を明らかにしました。



寒害で胚（種子）が凍死した幼果



寒害を受ける幼果のステージ（開花後35日）

発表2 成果発表

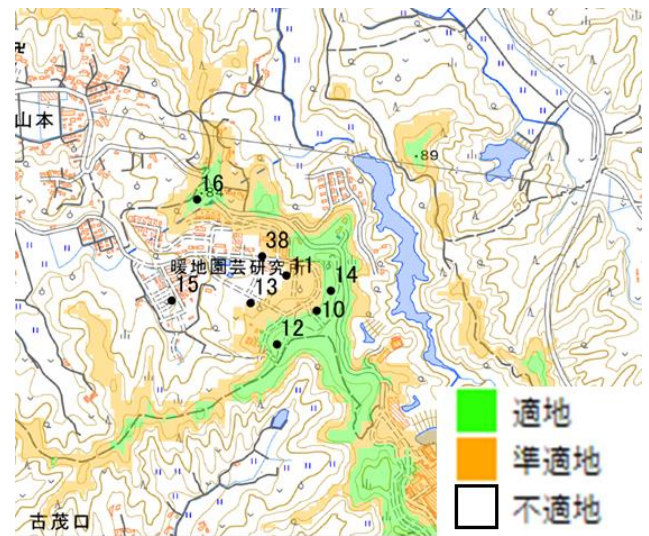
ビワ「大房」の栽培適地判定マップの開発

特産果樹研究室 横山 瑛

近年の暖冬傾向により寒害発生リスクが低くなることが予想され、産地ではビワ栽培を従来の急傾斜地から、作業性の良い平坦地に拡大することが期待されています。そこで、南房総地域の気温や寒害の現地調査を行いました。これらの結果を解析し、寒害をもたらす低温に遭う頻度が低い「適地」や頻度が高い「不適地」をマップにして示しました。ビワが成木になる将来の気温上昇を見込むと、「適地」や「準適地」の拡大が見込まれます。



開発したビワ栽培適地判定マップ



暖地園芸研究所拡大（館山市山本）

発表3 成果発表

台風等の被害により樹勢が低下したビワの回復方法

特産果樹研究室 中後 貴寛

台風被害で樹勢が低下したビワ樹を回復させるため、現地地の樹を用いて、摘房による着果負担の軽減や、株元のマルチ被覆の効果を調査しました。また、根域へのヤシ殻繊維資材の施用による根部や樹体の生育促進効果を明らかにしました。これらの結果を紹介します。



樹勢が低下した樹へのマルチ処理



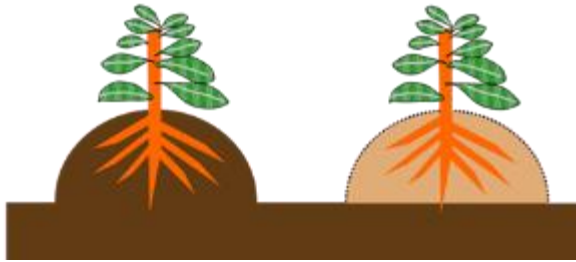
ヤシ殻繊維資材施用の様子

発表4 成果発表

ビワの改植時における盛土式客土法の開発

特産果樹研究室 中後 貴寛

ビワ産地では経済樹齢を超えた樹を更新するために改植が行われていますが、連作圃場では新たに植えた苗木に生育不良がみられることが少なくありません。そこで、植え付け時に行う盛土部分の土(70L)を新土で客土する盛土式客土法を開発しました。この方法により植えた苗木は、無客土(連作土で盛土)に比べて、初期生育や収量が多くなります。市販の赤玉土や赤土を盛土に使用して5年栽培した結果も報告します。



盛土客土法のイメージ図
(左：連作土、右：新土)



盛土式客土法による苗木の定植

発表5 成果発表

改植時から取り組むビワ白紋羽病の防除体系

生産環境研究室 鐘ヶ江良彦

ビワ白紋羽病は、樹を衰弱・枯死させるため、ビワの最も重要な病害の一つですが、園地の改植の際に新たに植え付けた苗についても、生育不良や枯死を引き起こしています。その対策としては、残根を丁寧に除去したうえで、植え付け予定地を高温水処理で殺菌する、定植時にフルアジナム水和剤を灌注処理するといった対策が有効です。さらに、2～3年間隔で追加処理を行って再発を防止できます。試験データに基づいて、防除体系を解説します。



定植前の高温水処理



定植時のフルアジナム水和剤灌注処理